森林経営管理制度に基づく意向調査の実施

- 名張市は、周囲を山々に囲まれた山間盆地であり、林野率は52.7%、人工林率は65.0%で、森林の主体をなす私有林においては、5ha未満の所有者が全体の52.1%を占めている。特に、南部は森林資源が豊富で、かつては優良な木材を産出する地域であったが、最近の社会情勢の変化に伴い伐採適齢期を過ぎても放置されている森林が急増し、里山としての利用すらほとんどなくなっている。
- しかし、森林の持つ多様な公益的機能は市民にとってかけがえのない財産であり、名張市が目指そうとする「福祉の理想郷づくり」には欠かせない重要な要素であることから、森林の機能低下を防ぎその向上を図るため、森林経営管理制度を進めていく。
- 令和2年度においては、令和元年度に作成した「名張市森林経営管理制度基本計画」に基づき、市内2地区、638.85haで意向調査を実施した。

□ 事業内容

1　森林所有者への意向調査の実施

- 令和元年度に作成した「名張市森林経営管理制度基本計画」に基づき、市内2地区で森林所有者に対し、森林経営管理についての意向調査を実施した。

- 布生地区

【事　業　費】5,830千円（全額譲与税）
【面　　　積】567.97ha
【筆　　　数】1,821筆
【調査対象者数】222名
【回答者数】130名（58%）

- 短野地区

【事　業　費】880千円（全額譲与税）
【面　　　積】70.88ha
【筆　　　数】453筆
【調査対象者数】56名
【回答者数】35名（63%）

相談会の様子（布生）

相談会の様子（短野）

□ 事業スキーム

市 →（委託）→ 森林組合 →（調査）→ 所有者

□ 工夫・留意した点

- 新型コロナウイルス感染症の影響により説明会を開催できなかったが、感染対策を実施したうえで個別相談会を開催することで回答率の増加に努めた。
- 地元代表者及び地元有識者と連絡を密にし、地元との協議がスムーズに行えるよう、協力体制の構築を図った。

□ 基礎データ

①令和2年度譲与額	17,538千円
②私有林人工林面積（※１）	4,128.83ha
③林野率（※２）	52.7%
④人口（※３）	78,795人
⑤林業就業者数（※４）	12人

※１：「森林資源現況調査（林野庁、H29.3.31現在）」より、
※２：「2015農林業センサス」より、※３，４：「H27年国勢調査」より